年度	2025
講義コード	1110004101
講義名称	保育カリキュラム論
代表ナンバリングコード	MH2143112
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	名古屋短期大学　保育科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 嶌田　弘子	保育科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔知識・技能〕保育と保育者の本質について理解する。	◎
2. 〔行動力〕豊かな人間性を備え、自己実現や社会貢献に向けて主体的に行動する。	
3. 〔省察力〕自らの保育実践を振り返り、改善しようと努力する。	◎
4. 〔協働性〕多様な課題の解決に向けて、社会の中でさまざまな人と連携、協働する。	

授業概要と方法	この授業科目は、保育士の経験を踏まえ、保育者が子どものよりよい成長を願い、子どもとともに遊びや生活を創り出すことができる「計画に基づいた実践」について、その仕組みや考え方、作成の方法、省察の意義と方法について具体的に考える。全体的な計画や具体的な指導計画は、保育者の意図や目的のないままに行われることはない。実践経験をもとに保育者の子ども理解や保育観が計画実践に影響を及すことを理解できるようにするとともに、計画作成を授業内で体験的に学べるようにする。【AL】
授業の到達目標	保育のカリキュラムとは何か理解する。教育・保育課程(全体的な計画)編成についての考え方や、編成に必要な関係法規、作成方法について具体的に知識を深める。編成にとって必要な子ども理解や子どもの育ちを支える環境等についても知識、理解を深められるようにする。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	保育に関する法規を理解し、教育要領や保育所保育指針等を読むようにすること。また、子どもを取り巻く環境の変化や社会問題にも関心をもち、新聞やニュース等に目を通すようにする。 授業毎に4時間の授業外学修が必要です。
フィードバックの方法	提出された課題はコメントをつける、または特徴的な見解や誤解については、次回の授業で解説を行う。
評価方法	課題レポート50%　各授業での小レポート30%　授業の振り返り　20%
教科書	教育・保育カリキュラム論　中央法規
参考図書	幼稚園教育要領解説　保育所保育指針解説　幼保連携型認定こども園教育保育要領解説
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	子どもが主体的に遊ぶことができる環境づくり、計画づくりを考えましょう。 連絡手段は、teams または、メールでお願いします。

授業計画表

第1回	内容 保育における計画の意義
第2回	内容 日本におけるカリキュラムの基礎理論
第3回	内容 子ども理解に基づく保育の循環

第4回	内容 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領の性格と位置づけ
第5回	内容 幼稚園の教育課程の編成と基本原理と方法
第6回	内容 保育所・認定こども園の全体的な計画の作成と基本原理と方法
第7回	内容 幼稚園の指導計画の作成
第8回	内容 保育所・認定こども園の指導計画の作成
第9回	内容 保育の評価
第10回	内容 指導計画の書き方
第11回	内容 0歳児の指導計画
第12回	内容 1歳以上3歳未満児の指導計画
第13回	内容 3歳児・4歳児の指導計画
第14回	内容 5歳児の指導計画
第15回	内容 小学校との接続
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	1110003101
講義名称	保育内容総論
代表ナンバリングコード	MH1211112
講義区分	演習
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	名古屋短期大学　保育科
必須/選択	必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 嶌田　弘子	保育科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔知識・技能〕保育と保育者の本質について理解する。	◎
2. 〔行動力〕豊かな人間性を備え、自己実現や社会貢献に向けて主体的に行動する。	
3. 〔省察力〕自らの保育実践を振り返り、改善しようと努力する。	◎
4. 〔協働性〕多様な課題の解決に向けて、社会の中でさまざまな人と連携、協働する。	

授業概要と方法	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における教育・保育の基本に基づいて、総合的に指導するという考え方を理解し、幼児の興味関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。また、教育・保育内容を実践に即して総合的にとらえることができるように、ＤＶＤ教材の活用、グループにおける話し合いや発表を取り入れ、具体的に学ぶ。担当者の実務経験を生かし、現場の様子も講義に反映し、具体的な理解を促す。【AL】
授業の到達目標	・乳幼児期の教育・保育においては、子どもの内面を理解することが一番の出発点であることを理解する。 ・乳幼児から幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をイメージし、総合的な指導の在り方や、保育者の役割を理解する。(DP) ・乳幼児の興味や関心、発達に応じた具体的な指導の在り方を、事例を通して理解する。(ＤＰ)
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	現代の幼児を取り巻く社会状況や問題などに関するニュース・新聞等における情報に関心を向け、自分の意見や考えをもつようにしよう。 授業の中で、実践的な学びの機会があります。各自、子どもの遊びの実際や保護者支援の現状など調べておくようにしましょう。 授業毎に4時間の授業外学修が必要です。
フィードバックの方法	提出する課題にコメントをつけて返却したり、特徴的な見解や誤解について、次回の授業で解説を行ったりする。
評価方法	授業の振り返り・課題提出物40％、確認テスト60％、による総合評価
教科書	「子ども中心の実践に学ぶ　保育内容総論」（建帛社）、幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説
参考図書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	保育者としての自分をイメージしながら授業の中で具体的な実践をします。各自、積極的に取り組むようにしましょう。 質問や連絡等、メールまたはteamsでお願いします。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション、保育内容総論で学ぶこと
第2回	内容 保育内容の歴史的変遷
第3回	内容 保育の構造と内容理解

第4回	内容 保育の構造と内容理解ー実践検討からー
第5回	内容 幼稚園・保育所・認定こども園の1日
第6回	内容 育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
第7回	内容 環境を通して行う保育
第8回	内容 遊びを通しての総合的指導ーおにごっこー
第9回	内容 遊びを通しての総合的指導ーおみせやごっこー
第10回	内容 家庭や地域との連携
第11回	内容 幼小連携・接続について考える
第12回	内容 保育の多様な展開
第13回	内容 劇遊び活動を考える
第14回	内容 行事活動への総合的取り組み　グループワーク
第15回	内容 まとめと確認テスト
第16回	内容 なし

年度	2025
講義コード	1110001801
講義名称	乳児保育Ⅰ
代表ナンバリングコード	MH1231122
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	名古屋短期大学　保育科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 嶌田　弘子	保育科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔知識・技能〕保育と保育者の本質について理解する。	◎
2. 〔行動力〕豊かな人間性を備え、自己実現や社会貢献に向けて主体的に行動する。	
3. 〔省察力〕自らの保育実践を振り返り、改善しようと努力する。	◎
4. 〔協働性〕多様な課題の解決に向けて、社会の中でさまざまな人と連携、協働する。	

授業概要と方法	乳児及び1歳以上3歳未満児の姿を十分に認識し、乳児及び1歳以上3歳未満の子どもがが有能な存在であることを理解する等、乳児保育の基本について考える。グループワークや事例検討などを行い、乳児保育に対する自分の考えをまとめながら、体験的に乳児保育の基本を学ぶ。【AL】
授業の到達目標	保育現場における乳児及び1歳から3歳未満児の保育に関する基本的事項や保育のねらいや内容について考え、保育を実際に展開できるような乳児保育における基本的な保育の力(理論習得、保育の実際の方法、教材の研究等）を身につける。また、乳児保育についての自分の価値観を持つことができるようにする。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	乳児、1歳以上3歳未満児への関心を深めるために、図書館などで乳児保育の最新情報を入手する。自分がどんな保育がしたいのか、考えるために身近なところでボランティアなど自主的に行うようにする。 座学で学んだことは、必ず復習するようにして最新的な知識や技術を習得できるように授業毎に授業外学修を4時間程度行う。
フィードバックの方法	提出する課題にコメントをつけて返却したり、特徴的な見解や誤解について、次回の授業で解説を行ったりする。
評価方法	課題レポート　50%　グループ検討への取り組み30%　授業の振り返り20%
教科書	実践につながる新しい乳児保育　ミネルヴァ書房
参考図書	保育所保育指針解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	授業の振り返り、小レポートは、毎授業に提出。 連絡手段は、teams　または、メールでお願いします。

授業計画表

第1回	内容 イントロダクション　授業の進め方
第2回	内容 乳児保育の意義と役割
第3回	内容 乳幼児保育の歴史
第4回	内容 日本における乳児保育の現状 乳児保育の基本　　0歳児の子どもと保育

第5回	内容 発達の連続的理解
第6回	内容 乳児保育の基本
第7回	内容 0歳児保育前半
第8回	内容 0歳児保育後半
第9回	内容 1歳児保育
第10回	内容 2歳児保育
第11回	内容 移行期の子どもへの関わり方と配慮
第12回	内容 子どもの病気と健康・安全
第13回	内容 特別な配慮を要する子どもの保育
第14回	内容 乳児保育における計画と記録
第15回	内容 保護者への子育て支援
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	1110007701
講義名称	障害児保育
代表ナンバリングコード	MH2123132
講義区分	演習
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	名古屋短期大学　保育科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 山下　直樹	保育科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔知識・技能〕保育と保育者の本質について理解する。	◎
2. 〔行動力〕豊かな人間性を備え、自己実現や社会貢献に向けて主体的に行動する。	◎
3. 〔省察力〕自らの保育実践を振り返り、改善しようと努力する。	
4. 〔協働性〕多様な課題の解決に向けて、社会の中でさまざまな人と連携、協働する。	

授業概要と方法	本授業は、障がい児入所施設児童指導員の経験を活かし、より具体的事例を用いて授業を展開します。保育者として障がいのある子どもやその保護者と向き合いいかに理解し支援していくことができるのか体験的に学びます。 保育現場において、障がいを持つ子どもへの理解を深めるために、ここではまず障がいをどのように捉えるのかについて学びます。また、保育現場でよく出会う発達障がいを中心に障がいの特徴や保育現場でできる支援について事例や体験を多く取り入れながら学んでいきます。
授業の到達目標	この授業では、保育者として必要不可欠である、障がいを持つ子どもに対しての理解を深めることを目的とします。また、障がいを持つ子どもを取り巻く理念等の理解を深め、保育現場でできる配慮や環境設定の工夫などを演習を通して体験的に理解します。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	障がいのある子どもの理解と支援は、授業だけでは学びきれませんから、夏休みなどの長期休暇中に施設や地域でのボランティアなど、積極的に子ども達と関わってください。
評価方法	授業への参加態度35%　毎時間のワークシート35%　　確認テスト30%
教科書	小林徹・栗山宣夫「ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育」　株式会社　みらい
参考図書	「幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領」
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	学修が進んでいくと「障がいとは？」「人間とは？」など、色々な「問い」が生じるかもしれません。学生時代にこうした「問い」を持つことは、将来みなさんが保育者になったとき、必ず心の支えとなると思います。

授業計画表

第1回	内容 障がい児保育とは～障がい児保育における「あたり前なこと」と「特別なこと」～
第2回	内容 障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷
第3回	内容 インクルーシブ保育と合理的配慮
第4回	内容 肢体不自由児の理解と保育における発達の援助
第5回	内容 知的障がい児の理解と保育における発達の援助

第6回	内容 視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい児などの理解と保育における発達の援助	
第7回	内容 自閉スペクトラム症（ASD）児の理解と保育における発達の援助①　理論的考察	
第8回	内容 自閉スペクトラム症（ASD）児の理解と保育における発達の援助②　事例から考える	
第9回	内容 注意欠如多動症（ADHD）児の理解と保育における発達の援助	
第10回	内容 重度心身障がい児・医療的ケア児の理解と保育における発達の援助	
第11回	内容 その他の特別な配慮を要する子どもへの理解と保育における発達の援助	
第12回	内容 個々の発達を促す生活や遊び	
第13回	内容 保護者や家族に対する理解	
第14回	内容 発達を目指した様々な連携	
第15回	内容 まとめと確認テスト	

年度	2025
講義コード	1110007201
講義名称	特別支援教育論
代表ナンバリングコード	MH1122141
講義区分	演習
基準単位数	1.0
講義開講時期	前期後半
対象学科	名古屋短期大学　保育科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 山下　直樹	保育科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔知識・技能〕保育と保育者の本質について理解する。	◎
2. 〔行動力〕豊かな人間性を備え、自己実現や社会貢献に向けて主体的に行動する。	◎
3. 〔省察力〕自らの保育実践を振り返り、改善しようと努力する。	
4. 〔協働性〕多様な課題の解決に向けて、社会の中でさまざまな人と連携、協働する。	

授業概要と方法	本授業は、障がい児入所施設児童指導員の経験を活かし、より具体的事例を用いて授業を展開します。保育者として障がいのある子どもやその保護者と向き合いいかに理解し支援していくことができるのか体験的に学びます。 本講義では、特別支援教育とは何かを理解することから始め、障がい児（者）教育の歴史や制度、障がいの種類と程度に応じた教育の基本的特性について、さらに、障がいはないが特別の教育的ニーズのある子どもの教育について学んでいきます。また、保育学生として障がい児（者）との望ましいかかわりを考えられるようになることを目標とします。
授業の到達目標	1.　障がいの概念について理解する。 2.　各障がいの種類と程度に応じた教育支援の基本的特性について理解する。 3.　障がい児（者）とかかわる際の基本的態度を養う。 4.　保育学生として障がいのある子どもへの受容的行動について考え、主体的な学習意欲を高められるようになる。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	障がいを持つ子どもの理解と支援は、授業だけでは学びきれませんから、夏休みなどの長期休暇中に施設や地域でのボランティアなど、積極的に子ども達と関わってください。
評価方法	授業への参加態度35％　毎時間のワークシート35％　　確認テスト30％
教科書	山下直樹『「気になる子」のわらべうた』　クレヨンハウス
参考図書	授業時に指示します
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	学修が進んでいくと「障がいとは？」「人間とは？」など、色々な「問い」が生じるかもしれません。学生時代にこうした「問い」を持つことは、将来みなさんが保育者になったとき、必ず心の支えとなると思います。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション／障がいとは何か？
第2回	内容 特別支援教育の概要とその理解
第3回	内容 日本におけるインクルーシブ教育システムの構築
第4回	内容 発達障がいのある子どもへの理解と具体的支援①自閉スペクトラム症

第5回	内容 発達障がいのある子どもへの理解と具体的方法②注意欠如多動症
第6回	内容 発達障がいのある子どもへの理解と具体的方法③限局性学習症
第7回	内容 保護者や家族に対する理 保護者や家族に対する理解
第8回	内容 就学支援と小学校との連携

年度	2025
講義コード	1110006401
講義名称	幼児教育相談
代表ナンバリングコード	MH2223121
講義区分	演習
基準単位数	1.0
講義開講時期	後期後半
対象学科	名古屋短期大学　保育科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 山下　直樹	保育科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔知識・技能〕保育と保育者の本質について理解する。	◎
2. 〔行動力〕豊かな人間性を備え、自己実現や社会貢献に向けて主体的に行動する。	◎
3. 〔省察力〕自らの保育実践を振り返り、改善しようと努力する。	
4. 〔協働性〕多様な課題の解決に向けて、社会の中でさまざまな人と連携、協働する。	

授業概要と方法	「幼児教育相談」は、保育カウンセラー、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえ、保護者の子育て支援をすることがテーマになります。 この授業では、教育者として必要となる教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解し、カウンセリングの基礎的な理論や具体的な方法を整理する。授業は、演習や事例を多く取り入れながら行います。学生自身で感じ、考えることで教育者として求められるカウンセリングマインドについて学びます。【AL】
授業の到達目標	「幼児教育相談」は、教育者として子どもの発達状況を理解し、子どもが好ましい人間関係を築き、集団の中での適応力を育みながら成長していくことを支援するのがテーマになります。また、支援に必要な基礎的知識を身につけるとともに、教育者としての自分自身を理解することを目標とします。 この授業では、ロールプレイやグループワークなど、より実践に近い形でカウンセリングマインドを身につけます。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	幼児教育の中でカウンセリングを生かすには、カウンセリングマインドの習得が欠かせません。授業で学んだことを基礎としながら、日常生活でも家族や友人と会話する際に、話された内容に積極的な関心を持ち、共感的に理解するよう実践することとします。
評価方法	授業への参加態度35%　毎時間のワークシート35%　　確認テスト30%
教科書	「幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領」
参考図書	授業内で指示します
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	発達心理学や臨床心理学、カウンセリングについての本など読んでみると、さらに視野が広がると思います。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション／教育相談の意義と理論
第2回	内容 教育相談の理論と方法
第3回	内容 子ども理解とカウンセリングマインド①MSSM法による自己と他者理解
第4回	内容 子ども理解とカウンセリングマインド②基礎的対人関係トレーニング

第5回	内容 子ども理解とカウンセリングマインド③受容と共感のカウンセリング体験
第6回	内容 子ども・保護者に対する教育相談とその具体的方法
第7回	内容 特別な配慮を要する子どもの保護者への教育相談
第8回	内容 まとめと確認テスト

年度	2025
講義コード	1210002001
講義名称	保育特別実習指導
代表ナンバリングコード	SH1051114
講義区分	講義
基準単位数	4.0
講義開講時期	前期
対象学科	名古屋短期大学　専攻科保育専攻
必須/選択	必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 小川　絢子	保育科
専任教員	嶌田　弘子	保育科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔知識・技能〕教育・保育・福祉・子育て支援の本質について、保育実践に基づく知識と技能を有している。	◎
2. 〔行動力〕自己を客観的に評価し、課題解決に向けて前向きな態度で行動することができる。	◎
3. 〔省察力〕自分や自分たちの保育実践を俯瞰的に見つめ、省察・改善に努めることができる。	◎
4. 〔協働性〕グローバルな視野を持ち、社会的ニーズを積極的にとらえながら、さまざまな分野・立場の人と連携協働して社会に貢献することができる。	◎

授業概要と方法	専攻科の実習は、有資格者としての自覚を持ち、より主体的に、実践的かつ専門的な課題をもって臨む必要がある。実習において観察した子どもの姿や、記録を発表して集団で討論したり、事例検討などを通して、保育の専門性や力量を向上させていくようにする。常に自分の保育と向き合って、省察して次に生かす姿勢を持つことができるようにする。【AL】
授業の到達目標	実習における実践的かつ専門的な課題に対して、主体的に取り組み、保育への対応力が持てるようにする。(DP)また、実習における記録などを基に、実践について発表し、討論などを通して、保育観を磨き保育者像を確立していくようにする。(DP)
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	週2日間の実習を無駄にしないように、実習の実践記録などを整理し、その記録から課題や問題を見つけ出すなど、保育に向き合う姿勢を常に持っているように心がけること。実習で見つけた課題について、自ら調べたり、考えたりすることで、積極的に理解を深め、探るようにすること。わからないときは、実習先の指導者に質問するなど、前向きに取り組むようにする。授業毎に4時間の事前事後学修が必要である。
フィードバックの方法	授業で提出された記録やワークシートの内容を踏まえ、次の授業の最初にフィードバックを行う。個々の学生へのフィードバックは、記録やワークへの取り組みに対し評価やコメントを付して返却する。
評価方法	実践についての討論への参加の様子と発表　60%　授業中の課題・実習の振り返り　40%
教科書	特になし
参考図書	適宜紹介する
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	保育科の実習ではないことを十分に理解して実習に取り組み、記録が残せるように工夫してください。連絡手段はTeamsを使用します。詳細は初回に説明を行います。

授業計画表

第1回	内容 イントロダクション 授業目的・評価方法・実習計画書の作成
第2回	内容 保育者・実習生としての基本的態度、子どもが主体となれる保育とは
第3回	内容 子どもの発達理解①　3歳未満児
第4回	内容 子どもの発達理解②　3歳以上児

第5回	内容 保育特別実習における記録の説明
第6回	内容 実習計画書を使用した意見交換／前期の行動指針を考える
第7回	内容 実習に基づく意見交換① グループ・テーマ決め
第8回	内容 実習に基づく意見交換② グループによる意見交換
第9回	内容 実習に基づく意見交換③ グループによるエピソード検討
第10回	内容 実習に基づく意見交換④ 発表準備
第11回	内容 実習に基づく意見交換⑤ 発表
第12回	内容 前期の記録を使用した意見交換、記録の振り返り
第13回	内容 前期の記録のまとめ
第14回	内容 専攻科2年生との交流
第15回	内容 前期の行動指針の振り返り
第16回	内容 前期のまとめ
第17回	内容 記録のフィードバック、後期の行動指針を考える
第18回	内容 改めてエピソード記述を学ぶ
第19回	内容 子どもへの理解を深める①　エピソード提出
第20回	内容 子どもへの理解を深める②　生活に関するエピソードを使用した意見交換
第21回	内容 子どもへの理解を深める③　あそびに関するエピソードを使用した意見交換
第22回	内容 子どもへの理解を深める④　3歳未満児のエピソードを使用した意見交換
第23回	内容 子どもへの理解を深める⑤　3歳以上児のエピソードを使用した意見交換
第24回	内容 子どもへの理解を深める⑥　発表準備
第25回	内容 子どもへの理解を深める⑦　発表
第26回	内容 子どもへの理解を深める⑧　発表の振り返り
第27回	内容 後期の記録を使用した意見交換、1年の記録の振り返り

第28回	内容 1年の記録のまとめ
第29回	内容 後期の行動指針の振り返り
第30回	内容 実習からの学びのまとめ

年度	2025
講義コード	1210001901
講義名称	保育特別実習
代表ナンバリングコード	SH1052116
講義区分	実習
基準単位数	6.0
講義開講時期	前期
対象学科	名古屋短期大学　専攻科保育専攻
必須/選択	必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 小川　絢子	保育科
専任教員	嶌田　弘子	保育科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔知識・技能〕教育・保育・福祉・子育て支援の本質について、保育実践に基づく知識と技能を有している。	◎
2. 〔行動力〕自己を客観的に評価し、課題解決に向けて前向きな態度で行動することができる。	◎
3. 〔省察力〕自分や自分たちの保育実践を俯瞰的に見つめ、省察・改善に努めることができる。	◎
4. 〔協働性〕グローバルな視野を持ち、社会的ニーズを積極的にとらえながら、さまざまな分野・立場の人と連携協働して社会に貢献することができる。	◎

授業概要と方法	専攻科における実習は、すでに資格や免許を取得した立場で保育実践を深め、保育の実践力を身につけるために行う。また、自分自信が保育者として深く考察したいテーマや自身の課題を見つけ、保育現場に出てからも保育実践研究が継続ができるようにする。
授業の到達目標	実習課題や実習において生じた問題と向き合い、積極的に指導を受けながら実践的に学びを深めるようにする。（DP）長期の実習を通して、保育者の専門性を深め、保育に対する研究の目を養うようにする。(DP)
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	事前に自身が実習を通して学びたいことを考え、子どもや保育者、保育内容や環境などを見取る視点を持って実習に臨むこと。実習の記録は、エピソード記述を中心として、子どもへの理解を深めることを目的として行う。また、自身の学びたいことや学位論文のテーマに合わせて記録の工夫を行うこと。 長期の実習を通して、子どもと継続的に関わるなかで、子どもへの理解を深め、子ども理解に基づき、保育者としてどのように関わることができるかを考え続けること。
フィードバックの方法	提出された記録にコメントを付してフィードバックを行う。
評価方法	実習の記録　100%
教科書	特になし
参考図書	特になし
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	自分の目的に沿って積極的に実習に取り組むこと。

授業計画表

	内容
第1回	自身の研究テーマ及び研究の目的に沿って自ら選んだ実習先で週2日間の実習を行い、子どもの姿や保育者の姿をよく観察して、自分が保育者になることを自覚しながら、実践的に実習する。子どもと積極的にかかわり、子ども理解を深めること、保育者の仕事内容や役割について理解し、自らも資格や免許を持っている立場で、様々な角度から保育を考えていけるようにする。また、仕事として保育を行うことについて、深く理解し、自分がどのような保育がしたいのか、保育観を磨き、一歩踏み込んだ子どもとのかかわりから、子どもへの理解も深めていく。

年度	2025
講義コード	1120008301
講義名称	英語学Ⅱ
代表ナンバリングコード	ME21LIN02
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	名古屋短期大学　英語コミュニケーション学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 福本　陽介	英語コミュニケーション学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔英語によるコミュニケーション力〕英語による4技能をバランスよく身につけ、それを用いて多様な文化背景を持つ人々とコミュニケーションが取れる。	◎
2. 〔思考力・判断力・表現力〕国際社会・地域で活躍するための知識と思考力、判断力、表現力を獲得している。	
3. 〔問題発見・解決力〕現代社会における課題に対応するため、社会における問題を発見し、解決案を提示できる。	
4. 〔他者との協働性〕他者と協働し、社会において主体的に活動できる。	

授業概要と方法	人間は言語を用いて何らかの「意味」や「意図」を伝達し合っています。本講義では、英語学Iで学んだ知識を応用し、特に、人間同士がコミュニケーションを取り合うことにかかわる分野（語用論）、その元となる語や文の表す意味とは何か（意味論）、意味を適切に伝えるための構造としての文法（統語論）を中心的トピックとし、伝達方法・伝達される意味・伝達するための構造という、言語の意味と形式の対応について考察します。一方的に知識を伝達するのではなく、毎回様々な実例を課題として提示し、その課題に取り組み、解決していく演習形式の授業方針を採ります。【AL】
授業の到達目標	①語用論・意味論・統語論の射程範囲や考え方を理解する。(EDP3) ②意味と構造の対応関係を理解する。(EDP3)
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	事前学習：事前に配布した資料の予習・課題・確認テスト対策（2時間） 事後学習：講義内容の復習・課題・確認テストのふりかえり（2時間）
フィードバックの方法	授業中および事後の回などにおいて、受講生から出た質問等に対してフィードバックを行う。
評価方法	授業参加態度30%　課題40%　確認テスト30%
教科書	資料配布予定
参考図書	適宜紹介します。
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	英語学Iを受講しているかどうかは影響しないので、英語学IIで初めて英語学という分野に触れる人は安心してください。受講生の理解度などに応じて適宜進度を調整する場合があります。連絡手段は授業中に指示します。

授業計画表

第1回	内容 ガイダンス
第2回	内容 コミュニケーションはどうして成立するのか
第3回	内容 Griceの協調の原則と会話の公理

第4回	内容 Austinの発話行為論
第5回	内容 まとめ・確認テスト(1)とフィードバック
第6回	内容 ジョークの分析
第7回	内容 メタファーとメトニミー
第8回	内容 まとめ・確認テスト(2)とフィードバック
第9回	内容 語や文の意味とはなにか(1)語の意味について
第10回	内容 語や文の意味とはなにか(2)文の意味について
第11回	内容 まとめ・確認テスト(3)とフィードバック
第12回	内容 文の構造(1)語、句、節などの単位とその構造：生成文法理論の観点から
第13回	内容 文の構造(2)定形節の構造
第14回	内容 文の構造(3)複文の構造
第15回	内容 まとめ・確認テスト(4)とフィードバック
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	1120008401
講義名称	英語音声学Ⅰ
代表ナンバリングコード	ME21LIN03
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	名古屋短期大学　英語コミュニケーション学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 福本　陽介	英語コミュニケーション学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔英語によるコミュニケーション力〕英語による4技能をバランスよく身につけ、それを用いて多様な文化背景を持つ人々とコミュニケーションが取れる。	◎
2. 〔思考力・判断力・表現力〕国際社会・地域で活躍するための知識と思考力、判断力、表現力を獲得している。	
3. 〔問題発見・解決力〕現代社会における課題に対応するため、社会における問題を発見し、解決案を提示できる。	
4. 〔他者との協働性〕他者と協働し、社会において主体的に活動できる。	

授業概要と方法	調音音声学の観点から英語における音の体系について学習する。講義科目ではあるが、実際に発音技能を高めるために演習形式で授業を進める。英語で用いられる言語音についての知識を身につけ、どのような発声器官を用いて発音するのか理解し、正しい調音方法で発音する技術を身につける。【AL】
授業の到達目標	英語の音声について理解し、正しい調音方法を身につける。（EDP1）
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	予習：テキストを事前に読み、付属のCDを視聴する。（2時間） 復習：授業で習った音声について音声学的な知識と調の方法の復習をする。（２時間）
フィードバックの方法	実技試験や小テストなどを実施するごとに、また毎回の実技課題に取り組むたびに、必要に応じてフィードバックを行う。
評価方法	授業参加度30%、授業中に実施する課題30%、実技40%
教科書	改訂新版　初級英語音声学（竹林滋他著　大修館書店）
参考図書	必要に応じて紹介する。
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	発音記号が調べられる辞書を毎回持参すること。 辞書に表記された発音記号が読めるよう日頃から意識的に辞書を活用すること。 連絡手段等は授業中に指示する。

授業計画表

第1回	内容 ガイダンス
第2回	内容 現代英語の標準発音・つづり字と発音
第3回	内容 音素とは・子音について
第4回	内容 子音の発音(1)　閉鎖音
第5回	内容 子音の発音(2)　摩擦音

第6回	内容 子音の発音(3)　破擦音・鼻音
第7回	内容 子音の発音(4)　側音・半母音
第8回	内容 確認テストとまとめ・フィードバック
第9回	内容 母音について
第10回	内容 母音の発音(1)　短母音
第11回	内容 母音の発音(2)　長母音
第12回	内容 母音の発音(3)　二重母音
第13回	内容 母音の発音(4)　弱母音
第14回	内容 母音の発音(5)　半弱母音
第15回	内容 確認テストとまとめ・フィードバック
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	1120008501
講義名称	英語音声学 II
代表ナンバリングコード	ME22LIN03
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	名古屋短期大学　英語コミュニケーション学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 福本　陽介	英語コミュニケーション学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔英語によるコミュニケーション力〕英語による4技能をバランスよく身につけ、それを用いて多様な文化背景を持つ人々とコミュニケーションが取れる。	◎
2. 〔思考力・判断力・表現力〕国際社会・地域で活躍するための知識と思考力、判断力、表現力を獲得している。	
3. 〔問題発見・解決力〕現代社会における課題に対応するため、社会における問題を発見し、解決案を提示できる。	
4. 〔他者との協働性〕他者と協働し、社会において主体的に活動できる。	

授業概要と方法	英語における音の体系について理論的・実践的に学習する。前期の英語音声学 I で学んだことを踏まえた学習内容なので、英語音声学Iを履修していることが望ましい。講義科目ではあるが、英語における音節構造、強勢、リズム、アクセント、短縮等について、演習形式で学習を進め、音声学的な知識だけでなく実技も重視する。【AL】
授業の到達目標	英語の音節構造、強勢、リズム等について理論的に理解し、その知識を実践の場で活用できるようになる。（EDP1）
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	予習：テキストを事前に読み、付属のCDを視聴する。（2時間） 復習：授業で習った音声について音声学的な知識と調の方法の復習をする。（２時間）
フィードバックの方法	実技試験や小テストなどを実施するごとに、また毎回の実技課題に取り組むたびに、必要に応じてフィードバックを行う。
評価方法	授業参加度30%、授業中に実施する課題30%、実技40%
教科書	改訂新版　初級英語音声学（竹林滋他著　大修館書店）
参考図書	必要に応じて紹介する。
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	履修にあたっては、前期の英語音声学 Iを履修していることが望ましい。 発音記号が調べられる辞書を毎回持参すること。 教科書で学んだ知識を使って発音する習慣をつけよう。 連絡手段等は授業中に指示する。

授業計画表

第1回	内容 ガイダンス
第2回	内容 音節とは・音節内の子音の結合
第3回	内容 単語間の音連続・音の脱落・同化
第4回	内容 確認テスト(1)とまとめ・フィードバック

第5回	内容 英語のアクセント・日本語のアクセント・語アクセント
第6回	内容 接辞と語アクセント・複合語アクセント
第7回	内容 句アクセント・文アクセント・強形と弱系
第8回	内容 確認テスト(2)とまとめ・フィードバック
第9回	内容 リズム(1)
第10回	内容 リズム(2)
第11回	内容 イントネーション(1)
第12回	内容 イントネーション(2)
第13回	内容 総合演習(1)
第14回	内容 総合演習(2)
第15回	内容 確認テストとまとめ・フィードバック
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	1120005501
講義名称	国際関係論
代表ナンバリングコード	ME22WRD07
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	名古屋短期大学　英語コミュニケーション学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 塚本　江美	英語コミュニケーション学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔英語によるコミュニケーション力〕英語による4技能をバランスよく身につけ、それを用いて多様な文化背景を持つ人々とコミュニケーションが取れる。	
2. 〔思考力・判断力・表現力〕国際社会・地域で活躍するための知識と思考力、判断力、表現力を獲得している。	◎
3. 〔問題発見・解決力〕現代社会における課題に対応するため、社会における問題を発見し、解決案を提示できる。	◎
4. 〔他者との協働性〕他者と協働し、社会において主体的に活動できる。	

授業概要と方法	この授業は、国際社会における政治的、経済的、社会的、文化的、軍事的問題の中から主だった事柄を取り上げ、世界のグローバル化の現状について学習する。【AL】
授業の到達目標	①国際関係の基礎知識の習得。②国際社会の一員としての自覚を持ち、地球規模の諸課題について考察・分析し、自分の意見を持てるようになる。(DP)
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	常に社会に目を向け、日々のニュースを新聞・テレビ・インターネット等で見る習慣を身につけるだけでなく、そこから見えてくるもの、内包しているものを見つける姿勢が期待されます。 授業前・後（2時間／週以上）：世界各国の情勢に関心を持ち、ニュースを聞く、新聞を読む（ネットニュース、ネット新聞でも可）。 授業後（2時間／回程度）：授業時に提示するディスカッショントピックに関する調査とレポート作成。
フィードバックの方法	課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。
評価方法	授業への参加態度(受講態度・意欲、授業内発言等含む) 30%、授業で実施する確認テスト・レポート70%
教科書	授業時に資料を配布
参考図書	①佐渡友哲(編)、信夫隆司(編)、 柑本英雄 (編) 『国際関係論 <第3版> 』（弘文堂、2018年） ②小田桐確 (編)、長谷川晋 (編)、 岸野浩一 (編)『ワークブック国際関係論: 身近な視点から世界を学ぶ』（ナカニシヤ出版、2018年）
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	オフィスアワーおよび連絡先は授業時に指示します。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション：本授業の説明と基礎知識
第2回	内容 歴史的視点 1：なぜ人は戦争をするのか
第3回	内容 歴史的視点 2：世界大戦

第4回	内容 歴史的視点 3：冷戦
第5回	内容 草の根の国際交流
第6回	内容 国際理解教育
第7回	内容 ドキュメンタリー映画『幸せの経済学』
第8回	内容 グローバル化とは何か
第9回	内容 グローバル課題 1（貧困と格差）
第10回	内容 グローバル課題 2（難民）
第11回	内容 現代の国際関係 1
第12回	内容 現代の国際関係 2
第13回	内容 グループワーク
第14回	内容 発表
第15回	内容 授業のまとめ・確認テスト
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	1120006501
講義名称	多文化社会論
代表ナンバリングコード	ME22WRD01
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	名古屋短期大学　英語コミュニケーション学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 塚本　江美	英語コミュニケーション学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔英語によるコミュニケーション力〕英語による4技能をバランスよく身につけ、それを用いて多様な文化背景を持つ人々とコミュニケーションが取れる。	
2. 〔思考力・判断力・表現力〕国際社会・地域で活躍するための知識と思考力、判断力、表現力を獲得している。	◎
3. 〔問題発見・解決力〕現代社会における課題に対応するため、社会における問題を発見し、解決案を提示できる。	◎
4. 〔他者との協働性〕他者と協働し、社会において主体的に活動できる。	

授業概要と方法	多文化の共存の実現を試みるべく政策を展開してきた国々（アメリカ・イギリスなど）について、社会のなりたち、文化的葛藤、アイデンティティを巡るせめぎ合い、その対応策の変遷、展望を概論として学ぶ。そして、日本に住む外国にルーツを持つ人々の現実、地域社会での共生の課題を把握し、日本の未来について考える。【AL】
授業の到達目標	世界の多民族国家におけるケーススタディを通し、多様な背景を持つ人々の共生の現実と課題を理解する。 日本の地域社会における多文化共生の現実と課題を理解する。(DP)
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	準備学習（2時間）：授業で行う発表準備（順番）、授業前に配布される資料は事前に必ず読むこと。 事後学習（2時間）：授業内で学んだ内容について復習し、情報を自分なりに整理、分析、考察を行い、指示された成果物（レポート等）を提出すること。
フィードバックの方法	課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。
評価方法	授業への参加態度（プレゼンや授業内の発言など）４０％、確認テストとレポート６０％
教科書	プリントを配布します。
参考図書	エマニュエル・トッド『世界の多様性 家族構造と近代性』藤原書店 (2008) サスキア・サッセン『グローバル空間の政治経済学』岩波書店（2004）
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	授業内で取り上げるトピックについて、ただ受動的に受け止めるだけでなく、能動的に自分なりに考える姿勢を大切にしましょう。「自分はどう感じ、考えたか」に常に意識的になってください。オフィスアワー、教員連絡先は授業内に指示します。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション
第2回	内容 多文化社会（歴史的視座）
第3回	内容 多文化社会における挑戦
第4回	内容 偏見・マイクロアグレッション・差別とは何か

第5回	内容 小括とディスカッション
第6回	内容 アメリカの事例①（移民の現実）
第7回	内容 アメリカの事例②（ディスカッション）
第8回	内容 ヨーロッパの事例①（イギリス）
第9回	内容 ヨーロッパの事例②（ドイツ）
第10回	内容 海外事例・ディスカッション
第11回	内容 日本の多文化共生
第12回	内容 日本の事例①（ことばの壁）
第13回	内容 日本の事例②（教育）
第14回	内容 日本の事例・ディスカッション
第15回	内容 まとめと確認テスト
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	1130007201
講義名称	野外活動論
代表ナンバリングコード	MG11F4L01
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	名古屋短期大学　現代教養学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 山下　玲香	現代教養学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔コミュニケーション力〕他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える表現力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていける。	
2. 〔専門知識〕幅広い分野にわたる知識を身につけ、人間、社会、自然に対する理解を深める。	◎
3. 〔思考力・判断力〕幅広い知識に基づき、より広い視野に立って物事を考え、様々な問題に適切に対応することができる。	○
4. 〔行動力〕問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に、仲間と協働しながら目的に向かって着実に努力を続けられる。	

授業概要と方法	この授業科目では、元高等学校教諭での経験を踏まえ、体育（野外教育）の知見から、野外における自然体験活動の基礎知識を教授していく。野外活動に関する知識を身につけるだけでなく、実際に道具を用いて扱ってみたり、野外活動計画を立ててみたりすることで知識を定着させる。課題の遂行や発表では、計画・準備を通して、仲間と協働して目標を達成していく。この授業はアクティブラーニング形式を取り入れ展開する。（AL）
授業の到達目標	１）様々な角度から野外活動を捉え理解することができる…GDP２◎ ２）学んだことを実践・表現することができる…GDP３○ ３）仲間と協働して目標を達成できる…GDP１，４◎
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	普段から野外活動に興味関心を持ち、文献や書物、テレビ、新聞などに目を通すこと…約４時間
フィードバックの方法	課題等の回答については翌週に口頭で説明する。個人的に必要な場合は、Teamsのチャット機能を使用して個別に授業担当者に要求すること。
評価方法	課題、ノート類40%　　発表、ディスカッション50%　　まとめ10% 授業中の迷惑行為（私語、化粧、スマホや携帯電話等の無断使用、遅刻、無断退出等）を行った場合、平常点から減点する。フィードバックは翌週または15回目に実施する。
参考図書	図書館にある野外関係の書籍を読むこと（キャンプ、ロープ、食事、毒の動植物、防災など）
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	・レジメはTeamsで電子配信または紙面配布する ・動きやすい服装と靴で参加すること

授業計画表

第1回	内容 野外活動の基礎・考え方
第2回	内容 野外活動の技術と指導①自然の歩き方過ごし方（テント、イスなど）
第3回	内容 野外活動の技術と指導②ロープワーク

第4回	内容 野外活動の技術と指導③ネイチャーゲーム
第5回	内容 野外活動の技術と指導④グループワーク （ネイチャーゲーム）
第6回	内容 野外活動の技術と指導⑤発表
第7回	内容 野外活動のリスク 危険予知トレーニング
第8回	内容 火おこしと薪割り／AEDの使い方（オンライン）
第9回	内容 救急法実習1　※豊明消防署消防士の方の指導
第10回	内容 救急法実習2　※豊明消防署消防士の方の指導
第11回	内容 野外炊飯の知識（調理方法や献立）
第12回	内容 野外炊飯の実践（メスティン、コッヘル、スキレットなど）
第13回	内容 野外活動の計画①グループワーク
第14回	内容 野外活動の計画②発表
第15回	内容 1～14回授業のまとめとフィードバック
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	1130006201
講義名称	人体の科学
代表ナンバリングコード	MG22F5L04
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	名古屋短期大学　現代教養学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 山下　玲香	現代教養学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔コミュニケーション力〕他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える表現力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていける。	
2. 〔専門知識〕幅広い分野にわたる知識を身につけ、人間、社会、自然に対する理解を深める。	◎
3. 〔思考力・判断力〕幅広い知識に基づき、より広い視野に立って物事を考え、様々な問題に適切に対応することができる。	○
4. 〔行動力〕問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に、仲間と協働しながら目的に向かって着実に努力を続けられる。	

授業概要と方法	「いのち」とは、2つの生命の結合により発生するものであり、その連続が今日の自分にたどり着いた生命の歴史そのものである。ヒトが生まれて死ぬまでの人体の不思議や身の回りの生き物の生態など、生命科学の基礎を学び、理解を深める。この授業を受けることにより、生理学的な分野の知識を身につけ物事を考えていくことができる思考力と、課題解決に取り組むことができる行動力、様々な方法により他者に伝えようとするコミュニケーション力が身につく。この授業科目では、元高等学校教諭での経験を踏まえ、学校保健の知見から、生命科学を日常生活で活用するための具体的な方策を学ぶ。また、自ら課題を発見し、発表に向け計画・準備を行い、他者へ伝える発信力を養う。また、この授業はアクティブラーニング形式を取り入れ授業展開をする。（AL）
授業の到達目標	1）ヒトが生まれて死ぬまでの人体の不思議や身の回りの生き物の生態など、生命科学の基礎を理解する。…GDP１◎　GDP２○ 2）授業のテーマについて自ら考え、意見を述べたりまとめたりする。…GDP２、３○ 3）ディスカッションや個人発表において、他者の意見や発言を聞き、協働して受講することができる。…GDP4○
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	1）興味のあるテーマについて、書籍やインターネットで調べる。（週に2時間程度） 2）提出された課題について、授業内で指定された方法で取り組む。（週に２時間程度）
評価方法	1）まとめのテスト２0点、課題６０点（ノート、課題、発表など）、授業への意欲２０点（ディスカッション、質問など）の合計100点満点で評価する。なお、紙面のまとめや課題は翌週に口頭で、Teams上のデータの場合はコメントの記載でフィードバックをする。 2）授業中の迷惑行為（私語、化粧、スマホや携帯電話等の無断使用、遅刻、無断退出等）を行った場合は授業への意欲点に反映する。
教科書	教員から随時指示する
参考図書	教員から随時指示する
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	1）授業には前向きな姿勢で取り組むことを期待しています。課題には真摯に打ち込み、グループワークは積極的に発言してください。 2）PCでレジメを配布しますが、紙面の場合もあります。

授業計画表

第1回	内容 いのちの多様性
第2回	内容 ヒトのからだの不思議
第3回	内容 ヒトのからだの構造と内分泌系
第4回	内容 血液・心臓について　知る、考える／個人発表テーマ決め
第5回	内容 個人発表準備
第6回	内容 骨・筋肉について　知る、考える
第7回	内容 個人発表
第8回	内容 脂肪について　知る、考える
第9回	内容 グループディスカッション
第10回	内容 内臓について①　知る、考える
第11回	内容 内臓について②　／菌（細菌、常在菌）について　知る、考える
第12回	内容 ウイルスについて　知る、考える
第13回	内容 ヒトと疾病の歴史について　知る、考える
第14回	内容 感染症について　知る、考える
第15回	内容 １～14回の授業まとめのテストおよびフィードバック
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	1130010801
講義名称	ＳＮＳとコミュニケーション
代表ナンバリングコード	MG21F2L04
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	名古屋短期大学　現代教養学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 高谷　邦彦	現代教養学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔コミュニケーション力〕他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える表現力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていける。	○
2. 〔専門知識〕幅広い分野にわたる知識を身につけ、人間、社会、自然に対する理解を深める。	○
3. 〔思考力・判断力〕幅広い知識に基づき、より広い視野に立って物事を考え、様々な問題に適切に対応することができる。	◎
4. 〔行動力〕問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に、仲間と協働しながら目的に向かって着実に努力を続けられる。	

授業概要と方法	情報のデジタル化が進んで急激に変化している現代社会に適応するために、特にウェブで起きている技術やサービスの変化、そしてスマートフォンとSNSの普及から生じたコミュニケーションの変化に注目しながら解説します。 一方的な講義ではなく、受講生が授業中に感じた疑問や意見に対してTeamsのチャット機能を使ってリアルタイムにフィードバックをしながら対話的に進めます。
授業の到達目標	SNSを中心としてウェブのさまざまなサービスを利用する際に必要となるリテラシー（知識や経験、マナー、常識など）を身につける。 SNSの歴史を学ぶことで、より幅広い視野に立って現在のSNSを理解することができるようになる（DP）。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	ふだんSNSを利用していて感じたことや疑問等について、授業の際に質問できるように整理しておくこと（毎回90分程度）。 講義の中で紹介するインターネットのいろいろなサービスについては、興味があれば自分でも試してみるようにしてください（毎回90分程度）。
フィードバックの方法	Teamsを利用してフィードバックをします。
評価方法	各回のミニレポートの提出状況30%、確認テスト70%。
教科書	なし（必要に応じて参考サイト等を指示します）
参考図書	授業中に指示します
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	ウェブの最新動向（新しいサービスの登場やSNSに関する事件やニュースなど）によって、講義の内容が変わることがあります。 各種連絡および確認テストのフィードバック等はTeamsを通じて行います。ミニレポートに書かれた質問に対しては翌回の授業冒頭で解説を行います。 授業で使う資料はTeamsで共有しますので、授業には必ずPCを持参してください。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション ～ 情報社会とは何か
第2回	内容 今ウェブで何が起きているのか
第3回	内容 メディアとは何か ～ 電話というメディア
第4回	内容 もうテレビはいらない？ ～ マス・メディア時代の終わり

第5回	内容 SNSとは何なのか 〜 承認欲求がすべて？
第6回	内容 ウェブのコミュニケーション 〜 AIとコミュニケーションは可能か
第7回	内容 X（旧Twitter）の多様性
第8回	内容 初音ミクの正体
第9回	内容 YouTubeが変えたもの　〜 動画によるクチコミ
第10回	内容 YouTuberたちの世界
第11回	内容 ニコニコ動画のコミュニケーション 〜 SNSと時間について考える
第12回	内容 マイノリティとSNS
第13回	内容 SNS事件簿 〜 ウェブで身を守るために
第14回	内容 災害とSNS
第15回	内容 確認テストと全体のまとめ
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	1130006901
講義名称	環境の科学
代表ナンバリングコード	MG11F3L04
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	名古屋短期大学　現代教養学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 山下　玲香	現代教養学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 〔コミュニケーション力〕他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える表現力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていける。	
2. 〔専門知識〕幅広い分野にわたる知識を身につけ、人間、社会、自然に対する理解を深める。	◎
3. 〔思考力・判断力〕幅広い知識に基づき、より広い視野に立って物事を考え、様々な問題に適切に対応することができる。	○
4. 〔行動力〕問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に、仲間と協働しながら目的に向かって着実に努力を続けられる。	

授業概要と方法	この授業では、①日常生活に存在する「リスク」について基礎的な知識と技術を学ぶ 、②こどもの特性を踏まえ「こどもの安全」について基礎的な知識と技術を学ぶ 、③緊急事態に備え、応急手当について基礎的な知識と技術を学ぶことを目的に、 わたしたちを取り巻く環境について広く知識を学ぶ。また、調べ学習や発表、ディスカッションを通して発信力を高める。【AL】
授業の到達目標	①日常生活に存在する「リスク」について基礎的な知識と技術を知り、他者と情報共有ができる …DP 1 、2 ②ヒトの習慣や特性を踏まえ私たちの安全について基礎的な知識と技術を知り、情報をまとめて発信することができる …DP 2 、3、4 ③緊急事態に備え、応急手当について基礎的な知識と技術を知り、実践することができる…DP 2 、4
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	自然災害に関する情報を収集する（新聞、雑誌、ニュースなど）…1週間あたり 4 時間程度
フィードバックの方法	課題を提出した際には、翌週に口頭でフィードバックを行う。
評価方法	平常点（授業内での発言、態度等：30点）、課題点（レポート、発表、課題等：70点）、合計100点で採点を行う。
教科書	なし
参考図書	必要に応じて授業内で紹介をする。
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	Teamsチャット機能を利用してください。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション：授業の概要とねらい／「環境」の学修での心得
第2回	内容 生活の中に存在する多様なリスクについて考える
第3回	内容 グループワーク／「ヒヤリハット体験」を共有しよう
第4回	内容 交通安全について考える（環境要因・人的要因）

第5回	内容 学校の安全について考える（環境要因・人的要因）
第6回	内容 「危機管理」の考え方／職場で求められる危機管理能力
第7回	内容 大災害が起きたらどうする？災害対応を考える①基礎知識編
第8回	内容 大災害が起きたらどうする？災害対応を考える②ゲーム実践編
第9回	内容 自分のための避難グッズを作ろう
第10回	内容 避難所計画を作ろう①
第11回	内容 避難所計画を作ろう②
第12回	内容 避難所計画の発表と質疑応答
第13回	内容 ファーストエイドの実践と応用①
第14回	内容 ファーストエイドの実践と応用②
第15回	内容 まとめと確認テスト
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	1130004101
講義名称	動画コンテンツ制作
代表ナンバリングコード	MG12F2S05
講義区分	演習
基準単位数	1.0
講義開講時期	前期
対象学科	名古屋短期大学　現代教養学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 高谷　邦彦	現代教養学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1.〔コミュニケーション力〕他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える表現力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていける。	○
2.〔専門知識〕幅広い分野にわたる知識を身につけ、人間、社会、自然に対する理解を深める。	◎
3.〔思考力・判断力〕幅広い知識に基づき、より広い視野に立って物事を考え、様々な問題に適切に対応することができる。	
4.〔行動力〕問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に、仲間と協働しながら目的に向かって着実に努力を続けられる。	

授業概要と方法	現代を創造的に生き抜く力を身につけるという学科の教育目的に基づいて、スマートフォンの動画編集アプリを使って動画コンテンツを制作する実習です。オリジナル作品の企画・撮影・編集を行います。制作した作品は著作権・肖像権に関する検討を行ったうえでウェブ（YouTube等のSNS）で公開することを予定しています。【ＡＬ】
授業の到達目標	SNSの時代に必要となるコンテンツ制作の知識と技術を身につけることを目標とします（DP）。コンテンツ制作の経験を通して、SNS利用者としてコンテンツの制作意図を読み取るリテラシーも学びます。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	授業内でも参考作品を紹介しますが、各自でYouTuberのコンテンツの制作手法を分析しながら鑑賞してみること（60分程度）。 授業時間内で撮影や編集が終わらない場合は、各自で作品完成に向けて作業を進めること（60分程度）。
フィードバックの方法	フィードバックはTeamsを利用して行います。
評価方法	授業への参加態度（30%）と制作した作品（70%）で評価します。
教科書	特になし
参考図書	必要に応じて指示します。
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	TeamsやLINE、メール等を使って随時サポートやフィードバックを行います。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション：参考コンテンツ紹介
第2回	内容 動画撮影の基本：カット割り、イマジナリーライン等
第3回	内容 動画編集の基本：スマホアプリの使い方
第4回	内容 課題コンテンツ（個人）撮影：カット割りを駆使してアクションシーンの撮影

第5回	内容 課題コンテンツ（個人）編集：コマ単位での編集、さまざまなカットの組み合わせ	
第6回	内容 作品講評会	
第7回	内容 企画会議	
第8回	内容 課題コンテンツ（グループ）撮影	
第9回	内容 課題コンテンツ（グループ）編集	
第10回	内容 作品講評会	
第11回	内容 最終課題（個人）制作：企画	
第12回	内容 最終課題（個人）制作：撮影	
第13回	内容 最終課題（個人）制作：編集	
第14回	内容 最終課題（個人）制作：仕上げと公開	
第15回	内容 作品講評会とまとめ	
第16回	内容 試験なし	